

# 誰ひとり取り残さない長崎市の不登校支援

長崎市教育委員会では、不登校やその傾向がある子どもたち一人一人のニーズに応じた、多様な学びの場や機会を提供し、誰一人取り残されない教育を実現するため、次のような施策の展開を想定しています。

※ 灰色文字は未実施内容



## 【①居場所】学びの支援センター

登校という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することができるよう支援する。

- ①-1 ひかり教室(現在:市民会館7階)
- ①-2 校内別室支援(R5:8校→ニーズのある全ての学校へ拡充)



フリースクール等との連携協議会

## 【②つながる】アウトリーチ型支援

自ら、支援センターや校内別室に通うことができていない児童生徒に対し、SSW等との連携を強化して訪問し、学びの場へ誘い出す。

- ②-1 ひかり教室や校内別室へ(SSWの拡充)
- ②-2 民間フリースクールなど多様な学びの場へ
- ②-3 端末を活用したオンラインによる学びへ

## 【⑤特別な学校】学びの多様化学校

児童生徒の実態に応じた柔軟な教育課程を編成し、実施する不登校特例校(H17から制度化)を設置し、個別最適な学びを提供する。

※ 文科省への申請/設置準備補助金(1/3 上限5百万円)

- ⑤-1 分教室(市民会館に開設予定)
- ⑤-2 本校化検討
- ⑤-3 学びの支援センター併設による連携

- ※ 別室対象者在籍率  
小(39%) 中(78%)  
小74人中284人計358人
- ※ 別室の毎日利用率  
小(64%) 中(63%)
- ※ 別室担当者配置率  
小(46%) 中(79%)
- ※ 別室専用部屋設置率  
小(22%) 中(81%)  
(令和5年5月調査)



82%の小学校  
92%の中学校  
に不登校児童生徒  
(令和4年度調査)

## 【③ICT活用】オンラインによる支援

GIGAスクール構想で1人1台整備した端末(クロームブック)を活用し、AIドリルやテレビ会議システムを使い在宅児童生徒を支援する。

- ③-1 AIドリル等の教材活用や個別課題の配信
- ③-2 テレビ会議システムを使った交流や授業参加
- ③-3 学びの支援センター等による支援(保護者含)

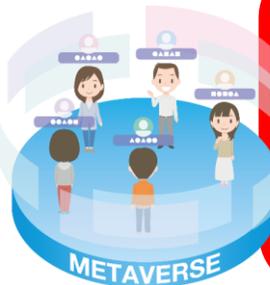


R1の約2倍

## 【④先進的支援】メタバース登校

自宅から踏み出せず、様々な支援を受けられない児童生徒を対象に、メタバース空間を活用し、面談や学びの場を提供する。

- ④-1 メタバース空間の構想等
- ④-2 学習コンテンツの企画・調整
- ④-3 コンテンツ提供者の選定(教員・NPO等)



METaverse

